

入門シリーズ

講座

こころの友伝道の歴史 ③



～こころの友伝道への改称から現在まで～



日本基督教団
赤羽教会 牧師

大友英樹

1997年に「訪問伝道」から「こころの友伝道」へと改称します。すでに1995年の全国大会が主題「こころの友となって主に仕えよう」、1996年が主題「こころの友となろう」を掲げて行われてきましたが、1997年から正式に「こころの友伝道全国連合会」となりました。

当時の原登会長（小松川）は『こころの友伝道の手びき』に「この度、『訪問伝道』の歴史を画して『こころの友伝道』として再発足することになりました。時代が変わり、昨今の人々の求めが極めて多様であり、伝道の効果をあげるために、より人格的な細やかな配慮のもとに、実り多い結果を期待して私たちの活動の名称変更すると共に、手引きもまた『こころの友伝道の手びき』と改称することにいたしました。…『こころ』の友とは、『心からの』『誠心誠意』の友となる意味ももっています」と「こころの友伝道」の意味内容を明らかにしています。「こころの友」という名称が心理学的カウンセリング的な要素をイメージしやすいところがあるわけですが、それを含みつつも、目的は伝道にあり、その伝道のために「より人格的なきめ細やかな配慮」をもって「心からの友となる」ことに「こころの友伝道」が目指すところがあります。

「こころの友伝道」への名称変更は、もう一つの重要な変更をもたらしました。それが訪問伝道からこころの友伝道の伝道論の変更です。それまでの「訪問伝道の三原理・六原則」が「こころの友伝道の三つの基本・五つの実際」に改訂されました。この改訂は伝道論の基礎的な部分（三つの基本）、①教会の宣教の使命、②牧師と信徒の協力伝道（チームワーク伝道）、③責任をもって導く伝道奉仕には大きな変更はありません。変

更がみられるのは、「訪問伝道の六原則」から「こころの友伝道の五つの実際」という実践的な部分です。

「訪問伝道」の六原則では、訪問伝道の名の通り、求道者を訪問し、その結果を報告するものでした。時代の変化の中で、「訪問伝道」の実践的な部分である訪問そのものが困難になってきたこともあり、その部分が修正されました。また六原則にあった教会の求道者受け入れ方法についても、こころの友伝道に関わることも、教会の対応になるということからでしょうか、その部分が削除されて、「五つの実際」となります。こうした手びきの改訂は、「訪問伝道」からの基本線を継承しながら、「こころの友伝道」の実践的な伝道論を見直していく作業であったと言えます。

「こころの友伝道」となってから、今日に至るまでの間でのトピックとして2つのことを挙げる事ができると思います。まず第1は2006年に第53回大会を「ソウル国際大会」として開催したことです。主題「歴史の主による和解の福音」、金俊坤師（韓国大学学生宣教会総裁）らが講師でした。第2は2011年に「訪問伝道」の頃から長年、「こころの友伝道」を教会に取り入れて、伝道の実りを得てきた福音派の内村撒母耳師（名古屋神召）が全国会長に就任したことです。前身の「訪問伝道」がスタンレー・ジョーンズから紹介されてはじまったのが日本基督教団や日本基督教協議会であったこと、1969年から「訪問伝道」が超教派の伝道団体となっていました。日本基督教団の教会が多かったこともあったからでしょうか、歴代の会長は日本基督教団の教職でありました。そうした中で、内村撒母耳師が会長に就任したことで、「こころの友伝道」が名実ともに超教派の伝道団体であることが証されることになりました。今年「訪問伝道」から70周年を迎えますが、「こころの友伝道」が各教会で豊かな実りを得ることを祈ります。